



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

### 鶴岡ロータリークラブ

### TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30~13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 247711

会長	嶺	岸	光	吉
幹事	佐	藤	徳	衛
会報委員長	川	村	繁	男
	小	池	正	治
	西	海		一
	佐	藤		昇

# No., 1101

1981. 3. 31 (火) (晴)

# No., 39

### ピンター紹介

本間儀左工門君	観光協会一温海R.C			
早坂重雄君	生命保険一酒田東R.C			
加藤有倫君	清酒製造	齋藤健治君	農	業
佐藤成生君	金物販売	井上 彬君	建築資材販売	} 鶴岡西R.C
笹本森雄君	ホテル			

### ◆ ゲスト紹介

梅木江理さん 交換学生

### 会長報告

嶺岸光吉君

◎この度米山奨学生として廖登稔君が推選されました。

# TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

56年4月から57年9月まで 月額 70,000円 米山奨学金受領されます。

◎先週梅木江理さんから帰国の報告がありましたが時間の関係で今日の例会で続きの報告をお願いしております。

## 幹 事 報 告

佐藤 衛君

会報到着 — 塩釜R.C

◎認証状伝達式案内 279地区 柏南R.C 6月21日

◎1981年国際ロータリー年次大会参加申込み 5月31日～6月3日  
於 ブラジル・サンパウロ

## SMILE BOX

- ・佐藤 衛君一二男 正晴君 関西学院大学 経済学部 合格
- ・笹原桂一君一次女 万里さん 鶴岡南高校合格
- ・日本商工会議所会頭表彰一風間慶三君、斎藤得四郎君、小池繁治君

### ◆ 東京千代田ローターアクト創立10周年記念式典に参加して

阿蘇 司朗君

千代田ローターアクトのメンバー構成が鶴岡のそれとはかなりの相違があった事、又会長は立候補した女子会長で非常に活発な活動をしている事、提唱クラブは神田R.Cと麴町R.Cでこれも相違であった事、しかしローターアクトのメンバーは提唱クラブの会員の事は良く理解していてロータリアンとローターアクトのメンバーの疎通が良く出来ており、当クラブでも是非この事は学ぶべきでロータリアンのローターアクトの会合への出席を要請してスピーチを終えました。

### ◆ ロータリー財団委員会

張 紹淵君

ロータリー財団への寄附金 3400%になった事の報告

### ◆ 10番目の孫がアメリカで生まれました

三井 徹君

当クラブで第1回目の交換学生として受け入れたアイリンから手紙が来ました。

三井のお父さん、お母さん、もう一度祖父と祖母になりました。3月13日にアラン・エドワード・ガイと云う赤ちゃんが生まれました。身長49.7cm、体重2,722gです。赤ちゃんとお親は元気です。皆様によろしくと云う手紙をいただきました。大変うれしく又喜ばしい事だと思っております。

## ◆ この一年を振り返ってみて

交換学生 梅木江理さん

鶴岡北高校2年を終了した私が、鶴岡ロータリークラブの援助を得てオーストラリア・ニューサウス・ウェールズ州のトロントに交換学生として留学したのは、今から約1年前の事でした。

そもそものきっかけは“生の英語”に触れて実践的な英語を身につけオーストラリア人の生き方や考え方を吸収したかったという事もあるのですが、1番の目的は、両親や家族、そして多くの友達から離れて自分一人の力でどれだけやっていけるか！自分自身を試す絶好のチャンスでもありました。それは並み大抵の事ではないと察してはいましたが、鶴岡、北高、そして日本を離れる事によって短所、長所が見えてくると同時に、客観的に物事を捕える目が養える事を期待していたからです。

1980年3月29日(土)、私たち日本人交換学生約50人は、不安と期待の入り混った面持ちで“成田国際空港”から飛びたちました。たった10時間という時間が過ぎただけなのに、もうそこは、南国オーストラリアでした。シドニー空港には、私のカウンセラー夫妻が迎えに来ており、初対面でも、もう自分の娘に接するように頬擦りされ、恥しくなったことを、今でも覚えています。そんな温かい夫妻に囲まれて、私は最初の一週間彼らと一緒に過ごしました。

そんな心温まる一週間を過ごしたせいか、1番めのホストに移動した時の打撃は想像以上のものでした。日本人の誰もがと行っていいほど最初は言語の面で若勞します。紙に書いてもらったり、ゆっくり、はっきり言ってもらえば理解できます。でもそこらの家の人たちは私がいわからなくて聞きなおすと、ゆっくり答えてくれるどころか“あんたには関係ないのよ！”という舌打ちと軽蔑の眼差しというおまけつきで跳ね返ってきました。ホーム・シック「日本へ帰りたい！」ということよりも、自分で自分が情けなくなってくるのでした。

また、学校で英語を5時間も学んできたのに、それが自分のものになっていないというのが腹立たしくなるのでした。そして日本の実践的でない英語教育の矛盾と言語の難しさをいやというほど思い知らされた3カ月間でした。学校でも皆がおかしくて笑っているというのに、私は何がおかしくて笑っているかすら理解できず、気持ちは沈むばかりでした。最初の3カ月はよくからかわれたりとか意地悪をされたりして「江理は全く笑わない子だ！」と言われたりして、友達もできませんでした。

でも3カ月を越えた私は、少しずつ変わり始めて、積極性も出てきて友達も徐々にふえてきました。その頃から、オーストラリアで生活すること自体が楽しくなってきました。皆に鶴の折り方を教えたり書道をやっていたので毛筆と墨汁で皆の名前をカタカナで書いてやったり、ピアノをひいてきかせたり、華道もやっていたので剣山を持って行き、花のいけ方を教えたりもしました。今、考えてみると、私の多趣味が多いに役立ったような気がします。約9カ月を経過した頃、言語(会話)もある程度身についたので私の希望で小学校2校、ハイスクール1校をまわって着物を着て日本の事を説明したりして、オーストラリア人と交流する事に重点を置きました。

交換留学生の旅行でも、学校でも私はすすんでバカをやりました。ちょっと古いのですが、ピンクレディーの“落のシンドバット”を人前で踊ったり、欽

ちゃんの“あっち向いてホイ！”を教えたりだとか。でも不思議な事にバカをやればやるほど友達はふえていくのでした。世界中の人たちが、“日本人は仕事一筋勉強一筋だ！”という偏見が多分にあるので、私がそういうバカをやればやるほど“へえー日本人ってこんなおもしろい面も持ってたのか！”と偏見の目を少しときほぐすくらいの事はできたと思います。とにかく、できる限りの事はやってきたつもりです。私が帰国する前日は、皆が私のために“お別れパーティー”を開いてくれ皆、ひそかにお金を集めて、プレゼントを数多くいただき、もう皆で泣きどおした一日でした。

留学を終えた今、私は自分の力であの苦しさをのり切った自身と、私に深い影響を与える友達を得た喜びと充実感で一杯です。これからは、自分を客観的にみつめる事を忘れずに、しかも、自分自身に素直に生きてゆこうと思っています。

あの素晴らしい1年間という期間を与えてくださった鶴岡北高の諸先生方、両親、鶴岡ロータリークラブ、そしてトロントロータリーの皆様に、深く感謝しております。

1981年3月31日．記．

## 出席報告

本日の出席	会員数	70名	欠席者	池田(弘)君、藤川君、早坂(徳)君、飯白君、 本山君、諸橋君、中野君、佐藤(昇)君、横田君
	出席数	61名		
	出席率	87.14%		

前回の出席	前回出席率	78.87%	メンバー	佐藤(忠)君一酒田東R.C 中江君一温海R.C 秋野君、黒谷君、諸橋君、鈴木(弥)君、富樫君、佐藤(友)君一鶴岡西R.C
	修正出席数	64名		
	確定出席率	90.14%		